

産廃処理施設建設計画影響調査研究会

西尾市一色町生田竹生新田

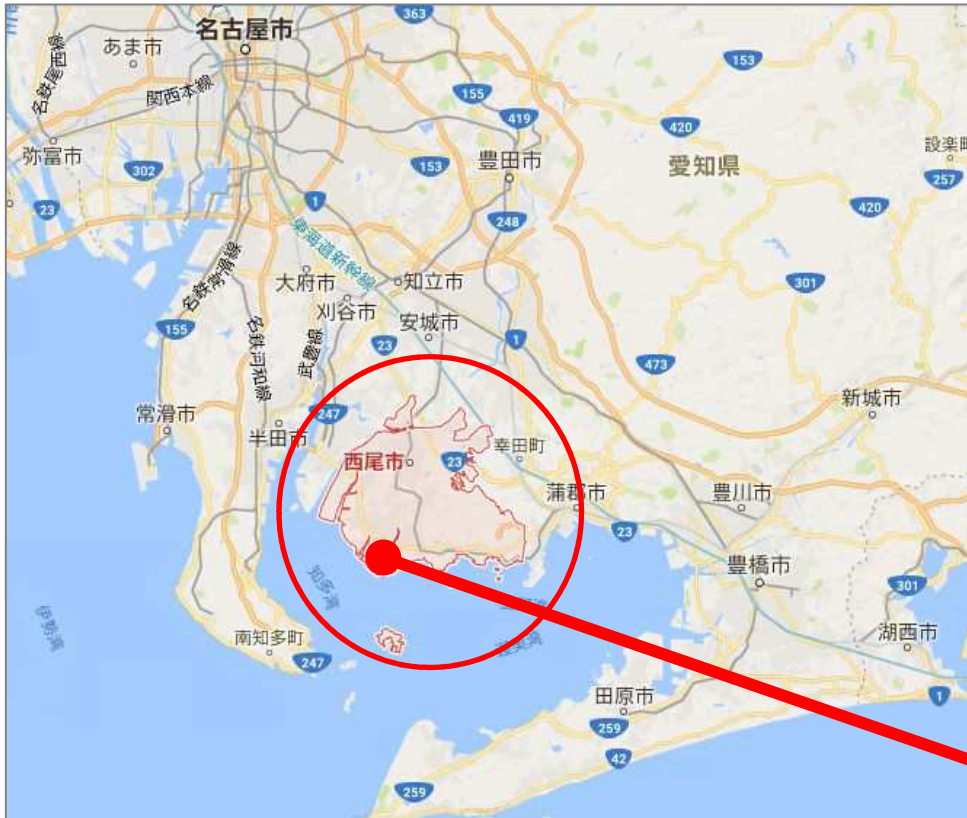


【研究会の目的】

- ① 周辺的生活環境、自然環境、地場産業等への影響等の調査、研究など
- ② 産廃処理施設計画地としての可否の判断

1 西尾市の概要

(1) 西尾市の位置



西尾市は、愛知県の中央を北から南へ流れる矢作川流域の南端に位置し、東に三ヶ根山などの山々が連なり、西に矢作川が流れ、南は三河湾を臨みます。

■面積:161.22 km²

■人口:171,546人(H29.4.1)



民間事業者による新規産廃処理施設計画地

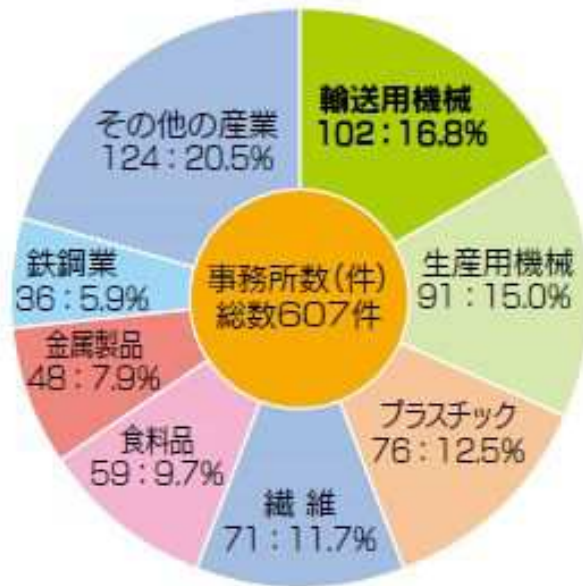
(2) 西尾市の産業

西三河南部地域の中核的な都市として、自動車関連産業の発展とともに成長してきました。また、日本有数の生産量を誇る抹茶(てん茶)や、カーネーション、養殖うなぎ、あさりなどの生産拠点としても発展しています。

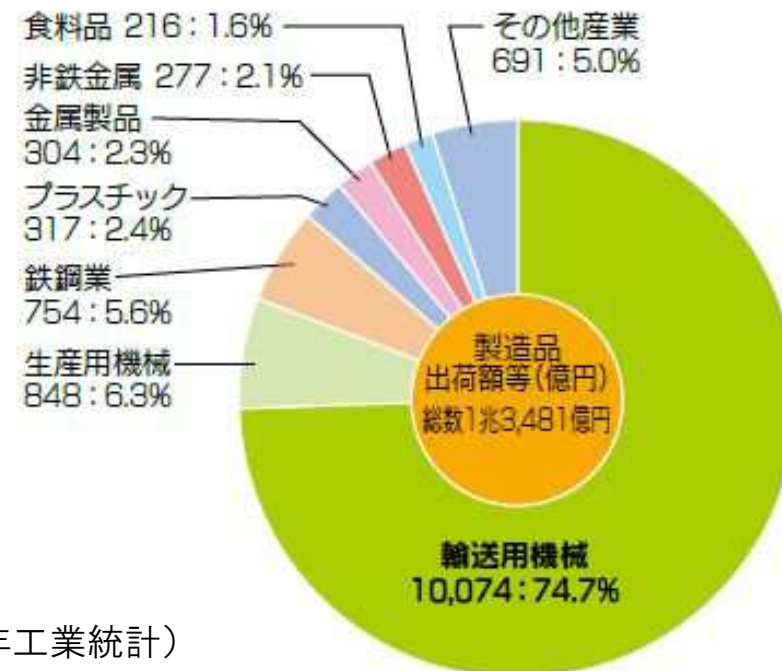
海・川・山に囲まれた豊かな自然環境の中で、地域に根ざした多様な文化と農・工・商のバランスのとれた産業を育てています。

① 製造業

【西尾市の事業所数】



【西尾市の製造品出荷額】



(H26年工業統計)

② 農業

平成26年

西尾市の農業算出額(推計)の合計 …… 167億2,000万円

【主な品目の農業算出額(推計)】

- 米 …… 17億3,000万円
- 野菜 …… 32億1,000万円
- 花き …… 35億2,000万円
- 畜産 …… 57億1,000万円

※畜産の内訳(主なもの)

肉用牛 1億8,000万円、乳用牛 11億7,000万円、
豚 30億2,000万円、鶏卵 10億6,000万円



※てん茶の生産量
(抹茶の原料)
全国トップクラス
H28年生産量471トン
(全国の約30%)



(農林漁センサスによる推計:農林水産省)

③ 水産業

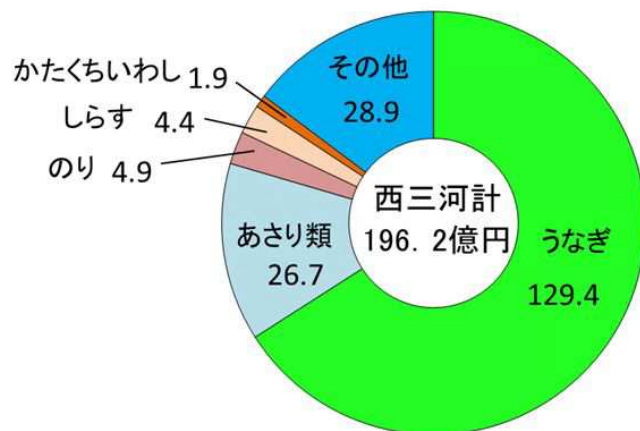
平成26年

西三河の生産額の合計 …… 196億2,000万円

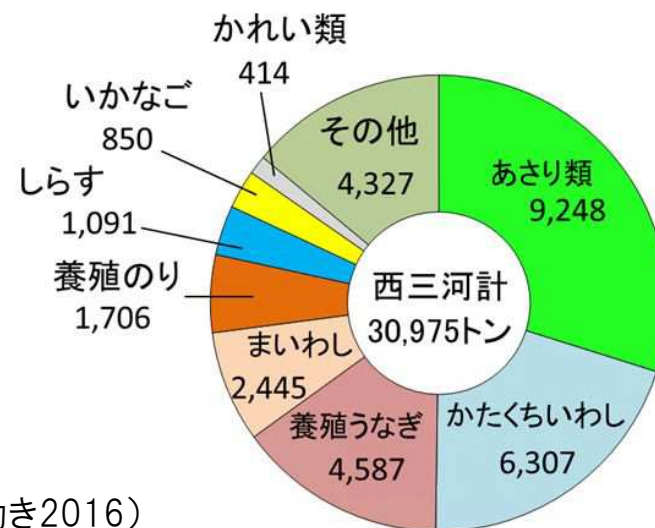
【主な魚種別生産額】

- うなぎ …… 129億4,000万円
- あさり類 …… 26億7,000万円
- のり …… 4億9,000万円

平成26年魚種別生産金額
(内水面うなぎ養殖含む)



平成26年魚種別生産量
(内水面うなぎ養殖含む)



(水産業の動き2016)

(3) 愛知県の産業特性

《 製造業 》

愛知県は、ものづくりの拠点であり、製造品出荷額等が昭和52年以来、38年連続全国1位となっています。

■平成26年度 愛知県製造品出荷額 43兆8,313億円(全国シェア 約14.4%)

※愛知県の製造品出荷額の53.6%を輸送機械関係(23兆5,089億円)が占めています。
(H26年工業統計)

《 漁業 》

平成26年度の生産量は全国15位、生産額は20位となっています。特に、あさり類は全国シェア 54.3%、うなぎ養殖は27.9%と、全国的にもトップレベルにあります。

■平成26年度

海面漁業、養殖業総生産額 382億円

※ あさり 30億5,300万円

※ うなぎ 139億円

※ 黒のり 34億9,000万円

(水産業の動き2016)

《 農業 》

平成26年度農業算出額は全国7位となっており、全国有数の農業県ともいえます。

■平成26年度

農業算出額 3,010億円

※ 野菜 1,010億円

※ 米・麦・大豆 275億円

※ 花き 557億円

※ 果樹・茶 175億円

※ 畜産 906億円

(よくわかるあいちの農業2016)

2 民間事業者による新規産廃処分場計画の概要

※平成25年7月に事業者から提示された資料を一部抜粋

(1) 事業主体

株式会社ケー・イー・シー（本社：三重県桑名市）

(2) 事業の目的

世界に誇れる最先端技術を導入し、総合的なリサイクルセンター、地域貢献型の環境保全事業「エコランド西尾」を立ち上げる。

中間処理施設及び最終処分場を建設し、総合リサイクルセンターを展開し、将来的には「環境テーマパーク」を実現する。

(3) 事業概要

管理型産業廃棄物最終処分場

中間処理施設

※主な処理品目

燃え殻、汚泥、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ダスト類、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類、鉱さい、第13号廃棄物、廃油など

管理型最終処分場とは、

最終処分場内部と外部を二重構造の遮水工によって遮断して、保有水等による地下水汚染を防止するとともに、発生した保有水等を集排水管で集水し、浸出液処理施設で処理した後に放流する処分場。

西尾に産廃処分場構想

県内最大規模 埋め立て50年

愛知県西尾市が県内最大規模となる産廃廃棄物最終処分場を、同市一色町生田の沿岸部に誘致していることが分かった。既に三重県の産廃業者から提案を受けている。計画地には別業者の処分場跡地があり、土壌汚染が心配されている。新たに誘致する業者に土壌などの無害化やその費用を任せる計画。周辺はウナギ養殖など農漁業が盛んで、地元への理解も鍵となりそうだ。

計画によると、埋め立て燃え殻や汚泥、廃プラなど年間二十万トンを二〇一七年に焼却場や立て面積は五十三万平方メートルで、ラスチック類などの産廃を受け入れ、埋め立て期処分場を善す。容量はナゴヤドーム六、魔のほか家庭ごみの焼却量は四十五十年に及ぶ市によると、最大の杯分の最大二千万平方メートル、却灰や不燃物、建設残土を埋め立てる。早ければ誘致目的は予定地内の



海沿いの広大な産廃処分場予定地＝愛知県西尾市一色町生田で、本社へリ「あさづる」から（加藤晃撮影）

産廃処分場跡地の無害化。かつて水処理施設で汚水を浄化していたが、十年以上前から稼働が止まり、業者は既に実体がなく、汚水漏れを防ぐ地下シートなどが破れた場合、環境への影響がある。合併前の旧一色町時代から問題とされてきたが、再処理費用は三百四十億円と試算され難題となっていた。榊原康正市長は「莫大なる市費を投入せず、

民間事業者による産廃処分場構想に係る新聞報道

(平成25年9月3日付け中日新聞)

3 一色町生田竹生新田地内の状況



産廃跡地	緑色の線	総面積：149,220㎡
処分場提案区域	青色の線	総面積：530,000㎡
市道(市道認定)	赤色の線	・生田2号線
	赤点線の線	・生田23号線
	赤点線の線	・生田28号線
市有地	黄色の線	
汚水処理施設	オレンジ色の線	

(1) 産廃処分場跡地の存在

昭和59年に民間事業者が産廃処分場を設置し、その後、拡張され、最終的には約15ヘクタールの産廃処分場(管理型処分場)となりました。廃棄物の搬入は、平成12年から13年頃に終え、平成15年以降汚水処理施設は稼働されなくなり、その後、平成18年3月に愛知県から施設の許可が取り消され、現在まで放置されたままになっています。

(2) 産廃跡地問題の今後の方策

地域住民代表や地場産業団体代表、弁護士などの有識者で「一色地区産廃跡地問題地域会議」を設置し、産廃跡地問題に係る今後の解決手法(全量運び出しや封じ込め)について協議を重ねてきました。

【地域会議の協議結果】

■愛知県の周辺水路等の水質調査や、西尾市の周辺水路の底質土壌調査において、これまでに異常は確認されていないこと、産廃跡地は、現状、ヨシやススキなどの植物が繁茂していること、隣接する水路を含め、鳥類や爬虫類、魚類といった生物の生息が確認できることから、掘り返しなどを行わず、環境監視を継続することが適切との提案がなされました。

■提案された環境監視の方策

県や市が行っている周辺水路等の水質及び底質調査の頻度を見直すこと、新たにガス調査を実施すること、各種調査結果の協議や現場を監視するため、産廃跡地監視調査組織を設立することが必要。

4 新規産廃処分場計画地周辺の教育施設及び観光施設



【観光施設利用者数】(H27年)

一色さかな広場	753, 200人
潮干狩り	140, 251人
佐久島	109, 663人

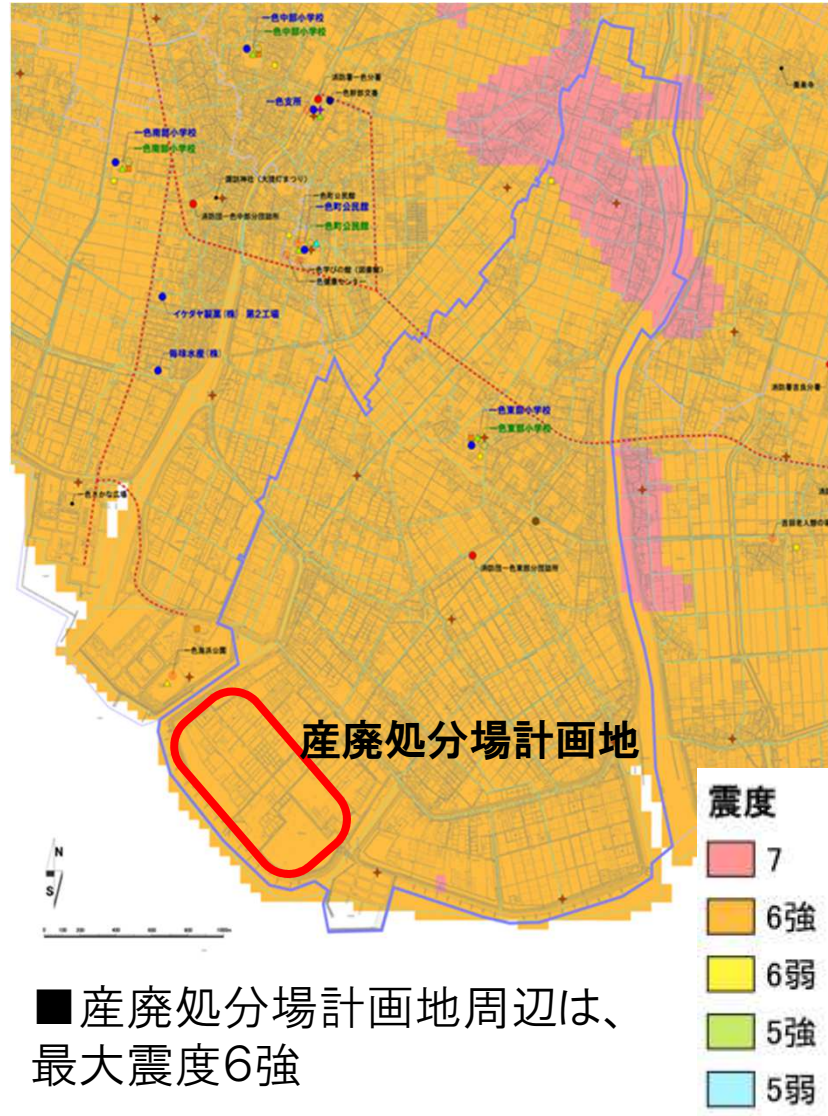
【地元一色町の教育機関の児童・生徒数】(H29年)

一色高等学校	767人
一色中学校	687人
一色東部小学校	317人
一色南部小学校	227人
一色中部小学校	454人
一色西部小学校	311人

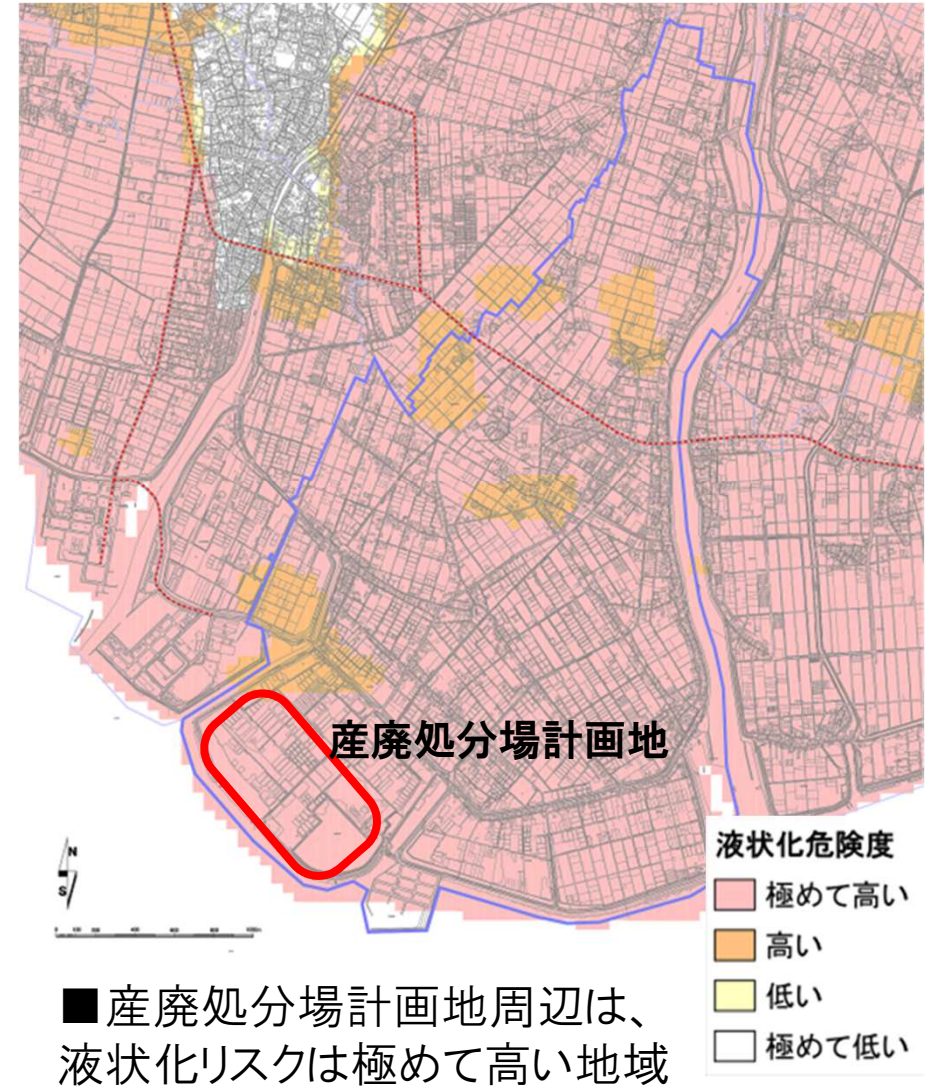
- 一色中学校グラウンドまでの距離 約 150メートル
- 一色さかなセンターまでの距離 約1, 200メートル

5 南海トラフ地震による被害想定等 (H26年5月愛知県公表)

(1) 最大震度



(2) 液状化リスク



【参考】

液状化被害の実態(浦安市の例)

※写真提供:浦安市
(転載禁止)

《 段差ができた河川護岸 》



《 倒れるガードレール 》



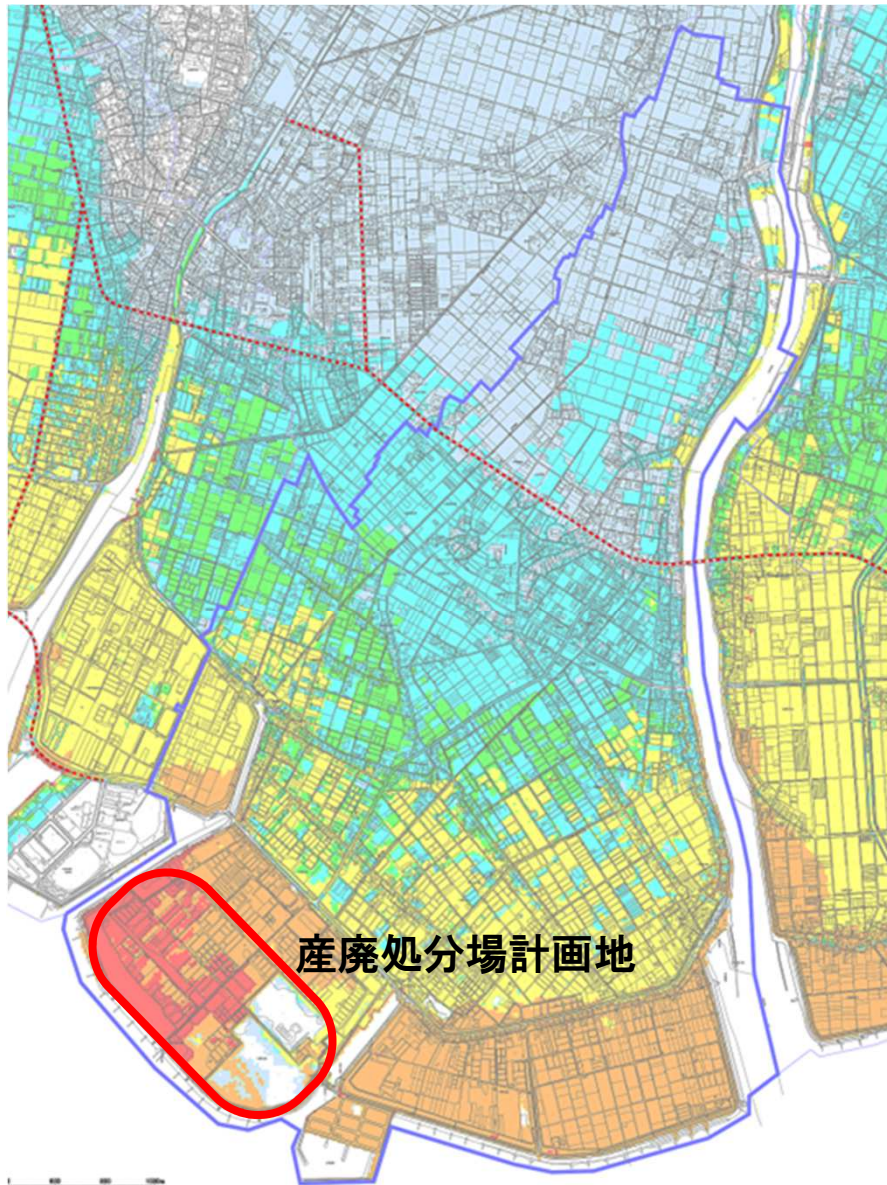
《 地盤沈下でできた段差 》



《 地面から飛び出したマンホール 》



(4) 津波到達時間



津波到達時間(30cm)

- 30分以内
- 1時間以内
- 1時間30分以内
- 2時間以内
- 3時間以内
- 3時間以上

■ 津波到達時間

53分

※産廃処分場計画地周辺は、液状化による影響の方が早く現れる。

(5) 海岸堤防の補強



大規模地震に伴う津波や液状化による浸水被害を防ぐため、海岸地震対策工事が施工されました。

※平成18年度完成

※東日本大震災以前の完成

※サンドコンパクション工法(海側)

※二重鋼矢板工法(中学校側)



6 新規産廃処分場によるリスク

■ 海岸堤防を隔てた三河湾に面した場所のため、災害等により汚水または廃棄物が流出した場合

- ・周辺的生活環境
- ・三河湾
- ・一色干潟
- ・水産業をはじめとする産業

被害は西尾市にとどまらず、広域的な被害が生じ、取返しのつかないことになってしまう。

■ 三河湾は、「アサリ」「海苔」を始めとし、日本全国の食卓に海の幸を届けており、全国的な損害につながってしまう。

■ 内陸部では、全国有数の水揚量を誇り、地域ブランドとして認定された「一色産うなぎ」の養殖が行われており、内水面漁業にも大きな被害が生じてしまう。

■ 大規模な産廃処分場が立地することにより、風評被害が懸念される。

【参考】

最終処分場用地選定の事例

和歌山県紀南地域では、廃棄物の発生抑制、排出抑制、資源化、減量化を徹底してもなおかつ発生する処理残さを適正に処分するための最終処分場が必要であったことから、最終的に候補地群を抽出するに当たり、除外の基準が設定されています。

《 候補地群の抽出基準 》

分類	項目(除外区域等)	除外地域・地点の内容	除外の理由
防災	市町村指定準用河川(河川区域)	河川法を準用し、市町村が指定した河川	河川の保全のため
	災害発生地	土砂災害、洪水被害が頻繁に発生する地域として市町村が把握している地域	土砂災害、洪水被害などを回避するため
	地質	防災上の理由から、最終処分場の立地に適さない地質の地域	処分場設置に適さない地質の土地への立地を回避するため
	地盤の液状化	発生する可能性のある大規模地震で、想定される液状化現象の危険度が極めて高い地域	液状化の危険性の高い土地への立地を回避するため
自然環境の保全	動植物生息地	和歌山県レッドデータブックに示されている希少動植物の生息地	希少動植物の保護のため
	市町村による保全地域	市町村が条例、計画等で定めた自然や動植物等の保全地域	自然環境や動植物の保全のため
文化財保護	市町村指定文化財	市町村文化財保護条例に定める文化財が存在する地域・地点	文化財の保護のため
その他	開発計画等がある地域	市町村により既に将来的な土地利用計画が決定している地域	将来の利用計画が決定している土地への立地を回避するため
	病院・学校等の公共的施設	不特定多数の人が利用する公共的施設が立地している地点	現に公共的利用がされている土地への立地を回避するため

(紀南地域廃棄物適正処理検討委員会の「紀南地域にふさわしい最終処分場の用地選定について」を抜粋掲載)

7 市民反対要望・反対運動

(1) 市長反対要望

平成29年5月、愛知県知事宛に、一色町生田地区における新たな産廃処分場の建設に許可を与えないことを求める要望書を提出

(2) 市議会反対決議及び意見書

- ① 平成26年5月、新たな産業廃棄物最終処分場及び関連施設建設に反対する決議
- ② 平成29年1月、愛知県知事宛に、新たな産廃処分場建設を許可しないことを求める意見書を提出
- ③ 平成29年5月、愛知県知事宛に、産廃処分場等の新たな建設計画を許可しないことを求めるとともに、愛知県環境影響評価条例を近隣県同様の厳しい内容に改正することを求める意見書を提出

(3) 市民反対署名活動

① 生田町内会等による署名活動

- ・平成27年6月、地元の生田町内会及び各種団体が愛知県知事宛に、新規産廃処分場建設反対の署名及び要望書を提出

※署名 818人分

② 三河湾沿岸の環境・生活・産業を守る会による署名活動

- ・平成27年10月、地元住民を中心に「三河湾沿岸の環境・生活・産業を守る会」(通称「三河湾を守る会」)が設立され、署名活動を展開

- ・平成27年11月、愛知県知事及び愛知県議会議長宛に新規産廃処分場建設反対の署名及び要望書を提出

※署名 20,535人分 (主に、一色地区の市民を対象)

- ・平成28年9月、愛知県知事宛に、新規産廃処分場建設反対の署名及び要望書を提出

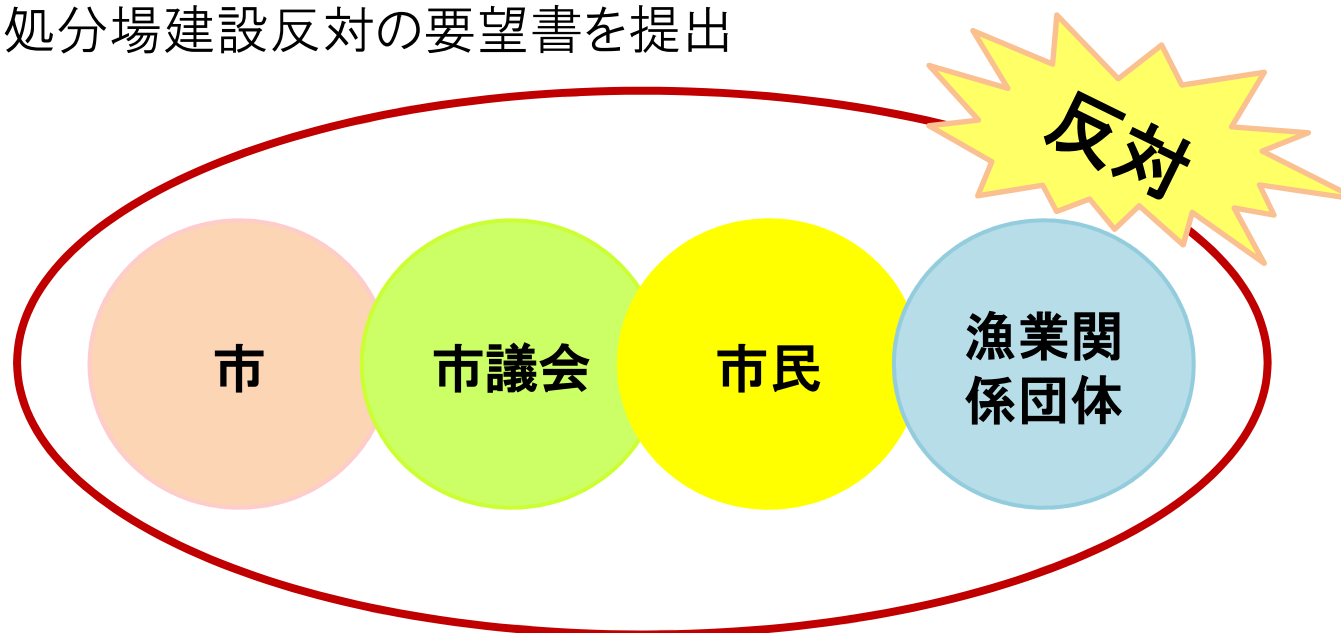
※署名 26,470人 (主に、一色地区以外の市民を対象)

- ・平成28年12月、環境大臣宛に、新規産廃処分場建設反対の署名及び要望書を提出

※署名 26,470人 (主に、一色地区以外の市民を対象)

(4) 漁業団体等の反対要望

- ① 平成26年3月、一色地区町内会長連絡協議会が、西尾市長宛に新規産廃処分場建設反対の要望書を提出
- ② 平成26年3月、愛知県漁業協同組合連合会西三支部が、西尾市長宛に新規産廃処分場建設反対の要望書を提出
- ③ 平成27年7月、愛知県漁業協同組合連合会が、愛知県知事宛に新規産廃処分場建設反対の要望書を提出



【参考】

新規産廃処分場計画地周辺の現状

《 三河湾 》



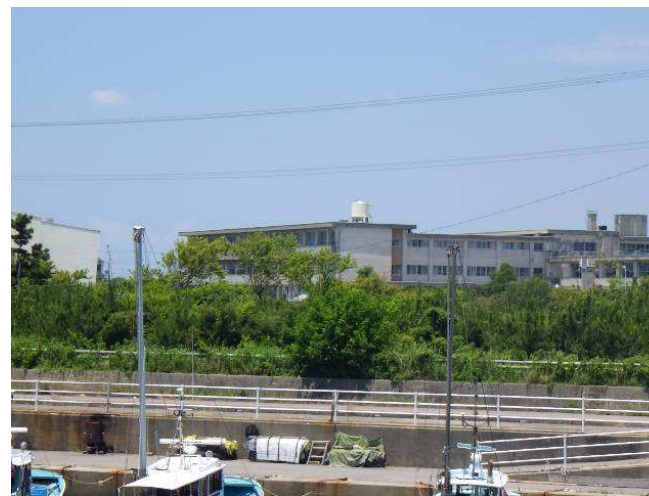
《 うなぎ養殖ハウス 》



《 一色さかなセンター 》



《 一色中学校 》



8 まとめ

市民の生活環境や豊かな海 三河湾、そして一色干潟を保全するとともに、海・川・山といった自然豊かな西尾市を次代に引き継ぐこと、さらには、全国トップクラスのシェアを誇る「アサリ」「うなぎ」「てん茶(抹茶)」といった産業を守ることは、西尾市民だけでなく、国民にとっても重要であると言えます。

西尾市一色町生田地区が、新規産廃処分場建設地として適地か否か、専門的な見地からのご協議をお願いいたします。



【地域ブランド】
一色産うなぎ
西尾の抹茶

